

第2次隊集中訓練



▲ 陣地変換をする99HSP

第三中隊及び本部管理中隊は平成二十七年七月十四日から十六日までの間、第一中隊及び第二中隊は、同年七月二十二日から二十四日までの間、北海道大演習場において、各中隊訓練検閲及び管理小隊検閲を二夜三日の状況で受閲した。
本検閲は、射撃中隊及び管理小隊が本日まで積み上げてきた教育訓練の成果を評価・判定するとともに、今後の進歩向上を促すことを目的として実施された。各中隊又は管理小隊は、気温が高くまた、時折雨の降る中、隊長の要望事項である「基本・基礎の確行」に着意しつつ、それぞれの任務を遂行した。
各中隊は、中隊長を核として年度当初から積み上げてきた実力を遺憾なく発揮し良好な成績を獲得した。
第二次隊集中訓練は、射撃中隊検閲、管理小隊検閲のほか、FO競技会を実施した。
FO競技会は、各射撃中隊の観測者である前進観測班長（FO）の識能試験、目標位置及び自己位置の決定、協力先の普通科中隊長との火力調整の各課題を個人対抗方式で実施した。第一位となったのは、第三中隊 山和夫二等陸尉であった。

▲ 隊容検査を受ける隊員

第三中隊及び本部管理中隊は平成二十七年七月十四日から十六日までの間、第一中隊及び第二中隊は、同年七月二十二日から二十四日までの間、北海道大演習場において、各中隊訓練検閲及び管理小隊検閲を二夜三日の状況で受閲した。
本検閲は、射撃中隊及び管理小隊が本日まで積み上げてきた教育訓練の成果を評価・判定するとともに、今後の進歩向上を促すことを目的として実施された。各中隊又は管理小隊は、気温が高くまた、時折雨の降る中、隊長の要望事項である「基本・基礎の確行」に着意しつつ、それぞれの任務を遂行した。
各中隊は、中隊長を核として年度当初から積み上げてきた実力を遺憾なく発揮し良好な成績を獲得した。
第二次隊集中訓練は、射撃中隊検閲、管理小隊検閲のほか、FO競技会を実施した。
FO競技会は、各射撃中隊の観測者である前進観測班長（FO）の識能試験、目標位置及び自己位置の決定、協力先の普通科中隊長との火力調整の各課題を個人対抗方式で実施した。第一位となったのは、第三中隊 山和夫二等陸尉であった。



発行所

11特OB会

連絡先

札幌市南区真駒内17番地
第11特科隊広報室
TEL (011) 581-3191
内線 2646
印刷 ワークショップ
アリス

第11特科隊創立7周年記念行事



▲ 家族を含む中隊対抗の玉入れ大会

玉入れ大会は、家族を含む中隊対抗で行われ、大いに盛り上がりました。祝賀会では、隊の一年間の活動をまとめたスライドショー、顔写真によるルーレットでの大抽選会等を行いました。最後に、平成二十六年度特科隊最優秀隊員中村忠芳二等陸曹による万歳三唱により本行事を盛会のうちに終了しました。



▲ 祝賀会食の風景

祝賀会食は、隊員ご家族とご臨席を賜り祝賀会が執り行われた。祝賀会においては、自衛隊小樽協会の山本信彦氏からご祝辞をいただき、自衛隊父兄会北海道地区協議会会長兼やまぶき会の武市芳清氏の祝杯の音頭により祝宴が催された。祝宴では、隊の一年間の活動をまとめたスライドショー、顔写真によるルーレットでの大抽選会等を行いました。最後に、平成二十六年度特科隊最優秀隊員中村忠芳二等陸曹による万歳三唱により本行事を盛会のうちに終了しました。

主な記事

- 二面、陸幕課目指定演習・第一線救護訓練
- 三面、第一回旅団射撃競技会・予備自衛官招集訓練
- 四、隊内生活体験支援・おたる運河ロードレース
- 五、OB投稿記事
- 六、定期異動者紹介・昇任者の紹介
- OB会からのお知らせ等

陸幕課目指定演習 (HTC事前検証)



陸上幕僚長の視察を受ける火力調整所



普通科連隊長と火力調整する射場1尉

隊は、平成二十七年六月二十四日から七月七日までの間、北海道大演習場及び東千歳駐屯地において実施された陸幕課目指定演習 (HTC事前検証) に参加した。本訓練は、旅団規模のICE訓練及び普通科連隊規模の実員によるパトラーとICEの連接入力支援を実施して、旅団が担任する訓練評価支援隊 (仮称) の運営要領等の検討に寄与することを目的に行われた。

六月二十四日及び二十五日、部隊運用計画に着手し、二十九日から七月七日の間は、それぞれの訓練場所に移動し訓練開始のための施設等の設置や訓練センターにおいては情報共有や情報処理のための機能別点検及び総合予行を実施し、四日からの課目指定演習に臨んだ。

状況は、二夜三日の想定で行われ、旅団での情報共有を基に、普通科部隊と密接に火力調整を実施し、積極的な戦闘を行った。

また四日には、北部方面総監の視察を受けるとともに六日、陸上幕僚長の視察を受け、普通科連隊規模の実動訓練及び旅団規模のICE訓練を並行して行う対抗方式による訓練の状況を視察された。

隊は、本訓練に参加し、最後の旅団防衛演習及び旅団対抗指揮所演習を見据えた所望の訓練成果を得て本訓練を終えた。



▲ 高所 (15メートル) からの懸垂下降実習



▲ 器材の取り扱い要領を説明する隊員

隊は、平成二十七年四月二十二日から四月二十三日までの間、駐屯地総合グラウンド及びレンジヤー訓練塔において、第一線救護訓練 (基礎技術) を実施した。

本訓練は、第一線救護に必要な隊員の基礎技術、特にロープ技術について理解及び技術の向上を目的に実施された。訓練は、安全管理者の指導のもと、レンジヤー特技保有者等が指導部として編成された。

当初、被教育者は、指導部の準備した資料をもとにロープの結び方等の予習指示が与えられた。訓練は、カラビナの取り扱いからアンカーの構成説明や取り扱いなどの教育がされ、その後、各科目毎、指導部の指示・説明が行われた。実習は、隊員一人一人の安全及びロープの使用練度を確認しつつ、段階的に実施された。

訓練最終日には、多数の隊員が最終段階の高所からのリペリングを実施が出来るまでの練度に達した。

隊は、登はん技術に必要な知識の修得及び技術を練成し、一件の事故もなく終了することができた。

第一線救護訓練

総監初度視察受け



▲ 儀仗隊を巡閲する岡部総監と浅田3尉

儀仗隊を巡閲する岡部総監と浅田3尉

平成二十七年四月二十二日、旅団は、第三十五代北部方面総監岡部陸将の初度視察を受察した。視察は、榮譽札・儀じよう、記念撮影、幹部挨拶、状況報告、会食、懇談、隊内巡視及び訓示受けの順で行われた。旅団長が出迎える中、北部方面総監は、榮譽札・儀じようを受けた。儀じよう隊は、第十一特科隊及び第十一音楽隊で編成され、儀じよう隊長は、第一中隊浅田詩織三等陸尉が務め、北部方面隊で初めてとなる女性隊長として注目された。

第一回旅団射撃競技会

隊は、平成二十七年六月十五日、平成二十七年第一回旅団射撃競技会に参加した。

本競技会は、平成二十六年度に引き続き実施され、戦闘員として必要な射撃練度の向上を図ることを狙いとし、各部隊の中から旅団長が選手を選定する形式で、誰が、選手になるかわからないという特性のもと、本番間近、二十一名の隊員が選出され、競技会に参加した。

競技要領は、競技者が六発入り弾倉を四弾倉保有し、三個的同時に六秒間現出し四秒間隠顕するF的を伏撃し二回、中間姿勢で二回射撃し、小移動を実施した後、一〇秒後同要領で実施し、全二十四発の中の命中弾数を競う競技内容であった。競技者は、射撃予習を連日行い本番に挑むも、初めての射撃内容で戸惑う者も見られた。隊長は、強い日差しが差し込みる中で終始選手

◀ 六秒間現出するF的を照準



を見守り、競技会は整齊と行われた。隊は、本競技会に参加し、実践的な各種状況における射撃により隊員の射撃練度の向上を図ることができた。

なお、競技結果は左記のとおりである。
部隊対抗 第四位(十一個チーム中)
個人の部 第一位(二十四点中二十三点の旅団最高得点) 本部管理中隊 藺牟田二曹

本競技会で個人の部第一位であった藺牟田二曹のコメント「この成果は、時間のなか、事前訓練をしてくださった指導部の方々のお蔭だと思っています。この結果に満足することなく更に技術の向上させることができる様にこれからも訓練に励みます。」

◀ 個人の部第一位 藺牟田二曹



予備自衛官招集訓練

◀ 訓練開始式



隊は、平成二十七年六月十八日(木)から二十一日(月)までの間、予備自衛官招集訓練(参加者二百二十一名)を担当した。

本訓練は、予備自衛官の資質の涵養と必要な識能の練度維持を目的に実施された。

訓練内容は、隊長による精神教育、防衛法制、体力検定、至近距離射撃、施設等の警戒防護、射撃検定、駐屯地史料館研修及び野外衛生教育等を行った。最終日の終了式において、勤務優秀者の表彰式を行い、本招集訓練を終了した。

▲ 野外衛生訓練にて緊迫止血法を実施



▲ 終了式にて表彰された隊員



隊内生活体験支援

隊は、平成二十七年四月六日から八日、岩田地崎建設株式会社（二十九名）及び、同月十三日から十五日までの間、極東高分子株式会社（十六名）の隊内生活体験を支援した。

この隊内生活体験支援は、自衛隊の実際の仕事を広く国民の皆様を知ってもらうため、地元の企業に対し、隊内生活を体験してもらい、規律心と集団生活における協調心の育成・向上に寄与するとともに、自衛隊に対する理解と信頼感を深めることを目的に行っているものである。

隊内生活体験参加者は、着隊初日は、隊長による防衛講話、基本教練及び体育訓練等を体験し、



10 Km 徒步行進（岩田地崎建設株式会社）



記念写真（極東高分子株式会社）

二日目は、装備品展示、装輪装甲車（WAPC）及び指揮通信車（CV）体験試乗、史料館見学、野外衛生（救急法）を体験した後、十キロメートル行軍を行い、冷気が吹く中ではあったが、教官の激励もあり最後まで全員が異状なく完歩した。最終日は、格闘訓練の後、副隊長による部隊の概要、東日本大震災の経験談などを受講し、三日間の生活体験を終了した。

参加終了するにあたり、「集団生活でいろんなことを学びました。会社でもここで学んだことを生かしていきたいです。また、自衛隊に対する見方が変わりました。」等の所見を残し駐屯地を離れた。

おたる運河ロードレース給水支援

選手を応援しながらの給水支援



隊は、平成二十七年六月二十一日、小樽市平磯トンネル近郊において、おたる運河ロードレース大会の給水支援を実施した。支援内容は、一カ所の給水ポイント（平磯トンネル前）に一トレーラ二台により小樽市水道局から配水を受けた水を運ぶ支援であったが、水の運搬後、隊員は、市内の学生等を中心としたボランティアスタッフ等とともに、選手（約二千五百名）に対し、水を汲んだコップを手渡して、選手を応援した。

今回で二十七回目となるこの大会に対して隊の支援は、十四回目となる。今年も事故もなく異状なく支援を終了した。



水トレーラの状況を確認しながら作業をする隊員

「自衛隊小樽協力会自衛隊を学ぶ女性」の集い」部隊見学支援

隊長による防衛講話



平成二十七年五月二十三日、真駒内駐屯地において、「自衛隊小樽協力会自衛隊を学ぶ女性の集い」が実施される陸上自衛隊見学を支援した。

参加者（二十三名）は、隊長による防衛講話の受講を皮切りに、九九式自走一五五mmりゅう弾砲の装備品展示、指揮通信車（CCV）による体験試乗、なごやかな雰囲気の中で女性隊員を含めた会食など体験し、部隊に対する認識を深めた。その後、駐屯地史料館を見学して、陸上自衛隊及び真駒内駐屯地等の歴史について学んだ。隊は、本行事を通じて、見学者に対し自衛隊に対する理解と認識を深めていただくとの目的を達成し、無事に支援を終了した。

